

双胎妊娠における分娩週数と周産期死亡リスクおよび特別支援教育の必要性和関係

Association of gestational age at birth with risk of perinatal mortality and special educational need among twins.

Murray S et al

JAMA Pediatr 174:437-445, 2020

目的 双胎妊娠は出生数の3%を占めるが、周産期罹患率および死亡率は単胎妊娠に比べて顕著に高い。出産時期の最適化は、双胎妊娠の転帰を改善する上で重要である。現在のイギリスと米国の政策は、周産期死亡率の観察研究に基づいており、長期的な影響は考慮されていない。双胎妊娠における出産時期と長期的な小児期の転帰との関係はいまだ明らかにされておらず、この研究により、短期および長期の有害転帰(周産期死亡率と学校での特別支援教育)のリスクが最も低い分娩週数を算出し、双胎妊娠の出産に最適な分娩週数を明らかにする。

方法 対象は1980年1月1日～2015年12月31日に、妊娠34週以降にスコットランドで出産した双胎児43,133人であり、2017年6月1日～2019年3月1日の期間に解析を行った。周産期死亡率と4～18歳時の学校での特別支援教育の記録を確認し、さらに、出産の分娩週数による影響をみるために、34週以降1週ごとに、出産した双胎児の臨床転帰と、この時点では妊娠

が継続していた双胎児の臨床転帰を比較した。

結果 対象の43,133人の双胎児のうち、21,696人(50.3%)は女児であった。性別の異なる双胎児は9,519人で、そのうち1,069人(11.2%)に特別支援教育の記録があった。妊娠34～37週での出産は、それ以降での出産(26,172人)と比較して、周産期死亡の確率が高く、さらに特別支援教育の増加と関連していた。競合リスク分析では、死産と新生児死亡のリスクは妊娠37週未満では死産に比べて新生児死亡のリスクが高かったが、37週で両者が均衡し、38、39週では新生児死亡のリスクが横ばいないし低下した。

結論 これら研究結果は、医学的合併症がない双胎妊娠の場合、妊娠37週以前での出産を一般化すべきではないことを示しており、双胎妊娠の出産時期に関する共通の意思決定の最適化に役立つ可能性がある。

(国際医療福祉大学病院産婦人科 兼子絢華 抄)

コルポスコピーの際の酢酸加工はどのくらいだと長すぎるのか? : 前方視的研究

How long is too long? Application of acetic acid during colposcopy : a prospective study.

Hilal Z et al

Am J Obstet Gynecol 223:101.e1-101.e8, 2020

目的 コルポスコピー実施の際に、子宮頸部に酢酸加工を行うことは子宮頸部異形成を検出する検査として一般的であるが、この検査を正確に実施するための証拠に基づいた標準的な基準はない。この研究により、コルポスコピーで白色上皮病変を評価するための最適な時間を前方視的に明確にする。

方法 主要評価項目として、酢酸加工後1分、3分、5分の時点で最も強度であった病変を記録し、副次評価項目として、最も強度の病変が最初に出現するまでの時間、病変が最も強く染色されるまでの時間、そして退色開始までの時間を記録した。

結果 合計300人の女性が対象となった。1分後300例中290例(96.7%)で最も強度の病変が検出された。この頻度は3分後290/300(96.7%)、5分後233/264(88.3%)で、時間の経過とともに低下した。軽度病変と強度病変の頻度は時間の経過に伴い、軽度病変が142/300(47.3%; 1分)から107/264(40.5%; 5分)、強

度病変が110/300(36.7%; 1分)から91/264(34.5%; 5分)と低下した。最も強度の病変が最初に出現するまでの時間の中央値は13.5秒で、高度扁平上皮内病変(HSIL)が7秒であったのに対して、軽度扁平上皮内病変(LSIL)では19秒であり、HSILで有意に短かった($p<0.001$)。また、78%の症例で白色上皮病変の退色が観察され、酢酸を使用してからの中央値は191秒であった。HSILでは、LSILに比べて退色開始が早かった(179.5秒対212.5秒; $p=0.044$)。全体として、3分後の評価では1分後と比較して、HSILが1例多く検出され、反対にLSILが1例少なくなった。

結論 白色上皮病変を評価するのに最適な時間は、酢酸加工後1分であると考えられた。また、3分までの継続的な評価は、HSILを検出するのに有用であるが、3分以上に延ばさないことが推奨される。

(国際医療福祉大学病院産婦人科 兼子絢華 抄)